

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570105112		
法人名	社会福祉法人 正瑛会		
事業所名	グループホーム翠風園 萌木ユニット 花浅季ユニット		
所在地	新潟市南区高井東2丁目13番33号		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは開設して7年目に入りました。開設当初より入居者の健康維持に心がけ、玄米食や雑穀、野菜中心の食事に気を遣っています。健康を維持し少しでも長くその人らしい豊かな生活を送っていただけるよう、また幼い頃から親しんできた郷土食など取り入れ、思い出に繋がるよう取り組んできました。

広い敷地を有する法人の園内では、家庭菜園や実のなる木、また季節によって多くの花々が咲き誇り、入居者の皆様に自然の中で楽しませてくれています。

法人の理念は「報恩・感謝・奉仕」ですが、入居者の皆様の姿から、その意味を教えていただく毎日です。何をして差し上げても「有り難う」と応えて下さる入居者の方に、有り難うという言葉の持つ温かさや労りとねぎらいを感じさせていただき、職員はなおいっそう自分の持てる真心を尽くそうと努めるエネルギーを戴いています。

今年のはじめて入居者お一人の看取りを経験しました。混濁された意識の中でも、最後までその方が言い続けられた言葉は「有り難う、ありがとね」でした。家族に、親戚に、お医者様に、そして職員に、有り難うの言葉を沢山残して旅立たれました。ご自分の過ごされた人生に感謝をみだし、その恩義に報いようとし、自分も周りの人々に無償の心で尽くして来られたのだと感じました。法人の理念を入居者様の姿に感じられた感動は大きなものでした。入居者の皆様お一人お一人が私達職員の人生の師だと、職員が本当に思い、真心を尽くそうと努めている職場を誇りに思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム翠風園」は、国道8号線沿いの広い敷地の中に、デイサービスセンターとヘルパーステーションと併設されている。建物は独立しており、その外観は和風の平屋造りで落ち着いた雰囲気がある。敷地内には植栽が施され、花壇や家庭菜園も作られており、利用者は四季折々の草花から自然の移ろいを感じ、食卓に載せる野菜作りを楽しんでいる。

ホーム内は和やかな雰囲気、利用者や職員とが一緒に歌を歌ったり、おやつを手作りするなど、日々の生活を楽しみながら落ち着いた暮らしを送っている。

事務所には、法人の理念である「報恩・感謝・奉仕」と書かれた額が掲げられており、朝礼時には理念を具体化した「心得」を唱和し、毎日10時のお茶の時間にも「今日一つ感謝できること」を話題にして理念の共有を図っている。さらに、職員一人ひとりが理念に基づく年間目標を掲げ、理念の実現に向けて日々努力している。

自己評価および外部評価結果

(花浅季ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・昨年同様、事業所の目標を「理念をよく理解し行動する」とし、利用者との関わり、ケアの中に実践して行こうと取り組んでいる。	法人の理念「報恩・感謝・奉仕」を具体化した「心得」があり、朝礼時に唱和することで意識を高めている。また年頭には職員一人ひとりが理念を実現するための目標をたて、12月に振り返りの発表会を行うなど理念の実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の祭りや地域の行事に参加し、地域住民の方々と交流を図っている。 ・今年度は加えて地域住民の方に声をかけ、事業所の行事に参加してもらえるよう取り組んでいる。	自治会の「ふるさと祭り」には、子供みこしの休憩所にホームの庭を提供し飲み物を用意して、地域の方々と交流している。地域の保育園との交流も行われており、今後は「地域の茶の間」に参加する地域の方々と交流も計画している。	事業所の行事への参加を地域に働きかけているが、より多くの方に参加していただけるよう、さらに運営推進会議で相談したり、チラシの配布や回覧板の活用など自治会を通じた働きかけも検討してはどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員個々に認知症キャラバンメイトの研修に参加し、今後地域の人々に伝えていきたいと考えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年間6回以上開催する事が実現出来るよう取り組み、日常の様子や行事を報告するだけでなく、会議のメンバーの方々にも意見や要望等も聞かせてもらい、課題改善の参考にさせてもらっている。	自治会長から会議のメンバーに加わってもらったことにより、地域の行事等の情報や防災面での助言や提案をもらえるようになった。また、他法人のグループホームの管理者にもメンバーになってもらっており、バーベキュー等でのグループホーム間の交流が実現している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・管理者が介護認定審査委員であり、月に何度か区役所を訪れ、必要に応じて担当各課に相談にのってもらっている。 ・他グループホームの運営推進会議委員でもあり、市町村職員とも意見交換できている。	区の担当課の担当職員とは、ホーム運営や利用者・家族の状況等について相談しやすい関係がある。成年後見制度の利用に関しても担当者に相談して助言を受けた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について内部研修を行い、日常のケアに不適切なことがないよう取り組んでいる。 ・スピーチロックについても理解し、意識を持ち日常のケアを行っている。	マニュアルは職員がいつでも見ることができる場所に整備している。また、外部研修に参加した職員が伝達講習を行って全職員に周知している。交通量の多い国道に隣接しているという立地であり、職員が気づかないうちに外へ出かけられる利用者があるため、玄関に施錠している。	身体拘束について職員一人ひとりの理解を深めるとともに、利用者の様子からその人の思いや行動パターンを把握して外に出かける理由等を検討し、玄関の施錠をせずに安全を確保するケアに向けて今後も取り組んでいくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に加え同じく内部研修を行い、職員への周知を図っている。 ・入居者に対する職員の言葉や態度にも気を付け、その場その場で注意しあう環境を作っている。 	マニュアルは職員がいつでも見ることができる場所に整備している。内部研修で虐待防止について全職員に周知しており、日々の利用者との関わりの中で不適切な言動がないか、職員同士で注意し合っで防止に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の中には現に成年後見制度を活用しておられる方もいて、管理者・職員も共に学びながら日々を送っている。 ・管理者をはじめ職員は機会をみて成年後見制度の研修会などに参加して理解を深めている。 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の見学時、また契約時に出来るだけ詳細に説明を行っている。 ・本人や家族が疑問や不安を口に出し安い雰囲気作りに努め、疑問・質問等あれば丁寧に説明している。 		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が面会に来られた時は個別に時間を取るように心がけ意見や要望などを聞くようにしている。 ・管理者・職員は利用者と個々に向き合う時間を持ち悩みや個別の要望などを聞くようにしている。 	利用者本人や家族、その他来訪者が誰でも自由に書けるノート(もえぎノート)を用意しており、要望や思いなどを書き込んでもらって運営に反映させている。要望に対するホームからの回答も記入している。また、利用者の個別の要望等についてもそれぞれ時間をとって話を聞き、実現に向けて検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者は定期的に職員と面談する機会を設け、職員の意見や要望などを取り上げている。 ・管理者・各ユニットリーダーは日常的に職員の意見や提案を聞き入れ、運営に反映させている。 	1~2ヶ月に1回、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞いている。昼食時間の設定や、庭の舗装、ライトの設置等の意見・提案があり、運営に反映されている。また、法人代表者が職員と面談を行う機会をつくり、意見や要望を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者をはじめ運営に深く携わる理事・評議員・各事業所の責任者が参加する経営会議が月に一度開かれ、事業所の問題点、課題、職員の取組、成長、功績など報告し、職場環境の向上を話し合っている。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に外部講師を招いて研修したり、外部の研修にも積極的に参加出来るよう、勤務の配慮をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設との交流会を交互に行っている。他施設からの見学・実習受け入れは積極的に行っている。 ・市内にある数カ所の同業者や他施設とネットワーク作りを行っており勉強会等も実施している。		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人が声に出して訴える内容や要望があれば聞き入れ、安心して生活出来るよう寄り添っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス導入から一定期間、電話等でコミュニケーションを取り、不安や要望を聞く機会を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人・家族の意向をよく聞き、可能な限り応えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の状態にあわせ役割を持っていただき、出来る事は参加してもらい主体的に生活者としての認識を持っていただけるよう支援している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の行事参加を積極的に呼びかけ、本人と共に過ごす時間を作っている。 ・家族より受診を出来るだけ協力していただき、身体状況を把握してもらい、併せて生活状況を伝えている。	“家族は本人にとってかけがえのない存在である”という認識のもとに、行事への参加や受診の付き添いを依頼している。また、毎月「グループホームだより」を家族へ送り、利用者の日常の様子を伝えることで、ホームと家族が協力して本人を支えていく関係構築に努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ホームに入居しても慣れ親しんだ自宅に時々戻り、少しの時間職員が付き添って過ごしている。 ・外泊し家族と過ごしていただいたり、行きつけの美容院に通う支援を行っている。	利用者のこれまでの暮らしの中での馴染みの関係を、アセスメントにより把握している。利用者の大切な家族の月命日には職員付添いのもと自宅へ行くなど、個別の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	・入居者同士の相性を把握し、良好な関係 が成立できるよう見守っている。 ・個別支援(少数)、集団支援を交え、スム ーズな関係造りを支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後、お見舞いや場合によっては家族 からその後の経過を伝えてもらい、必要に応 じてフォローや相談に応じている。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・本人とコミュニケーションをとり、希望や要 求等を聞き取り、実現出来るよう努めてい る。 ・訴えが出来ない方、少ない方に対しても日 常の関わりの中で、サインを把握している。	リラックスしてゆっくり個別に関われる入浴の時間な どを大切にして話を聞き、本人の思いや意向の把 握に努めている。本人の思いや意向は職員間で ミーティングやノートを使って共有し、実現に努めて いる。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	・本人・家族からこれまでの生活歴やなじみ の暮らし方等を聞き取り把握する。 ・入居時に家族にもセンター方式シートの記 入をお願いしている。	入居時に、家族にセンター方式のアセスメントシ ートの記入を依頼し、本人のこれまでの生活歴や馴 染みの暮らし方等の情報を得て、日々の関わりに 活かしている。その後は、職員が本人や家族から 聞き取ってシートに記入し、共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	・入居者個々の出来る事や出来ない事を見 極め、その日の体調や気分等により適切な 援助を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	・定期的にカンファレンスを行い、家族・本人 の意向など大切に介護計画を立てている。 ・昨年は介護計画についての評価の記録を 行っていなかった。今年より実践できるよう取 り組はじめた。	日々のかかわりの中でご本人の状態や意向を確認 し、家族には面会時や電話で話を聞きながら、毎 月モニタリングを行い、半年に1回の介護計画の見 直しを行っている。介護計画の実施記録につい て、様式を検討しながらより良い方法を模索してい るところである。	介護計画に沿って実践状況を日々記録す ることで、より一層具体的な評価が行われ るのではないだろうか。適切で効率的な記 録方法や様式等を引き続き検討し、的確な 評価により本人の現状に即した介護計画 が作成されることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録、業務日誌、個別記録表、また 申し送り等で情報を共有し、必要時には計 画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な限りご本人・家族等ニーズに対応し、フォーマル・インフォーマルも含め様々な関係者の協力をいただきながら取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事、市の主催する行事等に参加。 ・地元の小学校・中学校の文化祭等にも参加可能であれば声をかけていただいている。 ・近くの理美容院へ出向き利用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的にかかりつけ医への受診を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医に継続して診てもらっている。受診の付き添いは家族に行ってもらうことを基本とし、ホームに入居しても家族との関わりが途切れないようにしている。家族が困難な場合などは職員が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・デイサービスとグループホーム兼務の看護師が従事しており、連携をとりながら個々の利用者の状態を把握してもらい、随時相談にのってもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中も病院関係者と連絡を取りあい、本人の身体状況をよく把握し、家族とも情報を共有している。 ・退院後、速やかに普通の生活に戻れるよう受け入れ準備を整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際、家族と十分な時間を取り現時点で施設で出来る事と出来ない事について説明し、施設の方針を伝え理解を得ている。 ・協力医療機関の医師とも連携をとり、可能な限り支援していく体制作りを行っている。	入居時に本人が最期をどこで迎えたいか、家族を含めて話し合うと共に、ホームでできること・できないことを説明して理解を得ている。平成23年に初めて看取りをした経験を活かし、重度化した場合の対応に係る指針を作成して体制作りを進めている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルの整備に加え、定期的に救急法の訓練を行い、実践力を向上させて行きたい。 ・救急法は繰り返し研修を受けていく必要がある。	マニュアルを整備するとともに、年1回救急法の研修を行い、全職員が急変時に迅速な対応ができるよう訓練を重ねている。日常の事故については、事故報告やヒヤリハットで共有し、再発を防ぐよう意識付けを行っている。	事故報告に再発防止の対応策が記載されているが、その効果の検証がされているのが確認できなかった。期間を定めて対応策の検証を行うことで、さらなる再発防止につなげることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災・地震の際は緊急避難できる協力施設を確保している。 ・水害の時は当施設が周囲より高い所なので動かない。	地域の防災訓練で炊き出しやバケツリレーに参加したり、近所に災害時の応援を依頼する文書を配布している。水・食料の備蓄のほかに石油ストーブや自家発電機も用意し、年2回のホームの避難訓練の際に使い方の訓練も行っている。	
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人の人格を尊重し、気持ちの良い日々を過ごしていただけるよう対応に気を付けている。	利用者一人ひとりの人格や状況に配慮し、自尊心を傷つけない声かけをするように気をつけている。また利用者に対し「～させる」など指示的な言葉使用をしないよう、職員同士で注意しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者様に喜んでもらえるような行事計画を考え、好物の食物を取り入れるように心がけて居る。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者様のお好きなものを取り入れたり、得意な事を引き出ささせていただき、過ごしていただくようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行事や外出時には服装を改めて、きちんとした身なりを心がけている。 ・薄化粧をしたりして喜んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜の皮むきなどをお願いし、料理の作り方等お聞きしたりして、入居者様の経験を活かしていただいている。	利用者と職員と一緒に庭の畑の野菜を収穫し、その野菜をどう調理するか相談したり、一緒に調理するなど食事作りの楽しみを支援している。ゆったりしたオープンキッチンには、準備や後片付けに利用者が自然に出入りされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・各自の注意すべき食品に気を付けながら、食べやすいように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・3食後の口腔ケアの実施と共に細かい点にまで心配りをし、食べかすを残さぬように注意している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握して適時トイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。 ・失敗があった時は、清拭、入浴、清潔保持に努めている。	チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンの把握し、さりげなく声をかけたり、適時トイレへ誘導して、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・主食に玄米や雑穀を取り入れ、植物繊維の豊富な物、野菜等の積極的摂取を心がけている。 ・バランスの良い食事、水分摂取、規則正しい生活、適度な運動を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴時はマンツーマン対応で、積極的にコミュニケーションをとるように努めている。 ・皮膚の観察、全身状態の変化に気配りしている。	「夏は毎日入浴したい」「入浴剤を使いたい」などの希望を聞きながら、できるだけ利用者一人ひとりの要望に沿った対応をしている。入浴拒否のある方には、時間や日、対応職員を替えるなどして声かけをしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の入眠体勢を把握し、安心して休んでいただけるように努めている。 ・日中も気兼ねなく休めるよう気配りしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各個人ファイルに服薬明細をファイルし、職員全員で共有出来るようにしている。 ・症状の変化があれば主治医と連絡をとり速やかに対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の状態を把握し、お手伝いに参加していただく環境を作っている。そして張り合いや喜びを感じられるように努めている。 ・毎月の行事やお誕生会を行い、楽しみや気分転換になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての入居者が個々に外出する事は出来ないが、全員で楽しめるような場所を選び外出している。 ・個人の買い物がある時はお金を渡し、支払っていただいている。 	朝・夕のゴミ捨てや毎日の散歩など、日常的に戸外に出かけている。自宅へ行きたい、ドライブしたいなどの要望のあるときは、職員の体制が可能な限り実施している。天気の良い日や地域の行事があるときは、気分転換も兼ねて外出し楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日常にお金を所持する事は難しくなってきたが、一緒に買い物などに出かけた時はお金を渡し支払っていただき、買い物の楽しさを味わっていただいている。 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に御家族の了承を得て、電話を掛けたい方はかけていただいている。又、家族からの電話に直接出て会話をしていただいている。 ・手紙を書ける方は自分で書かれているし、年賀状・暑中見舞いなどなるべく本人に書いていただいている。 		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様と一緒に園内に花を飾り、季節感を感じられるようにしている。 ・フロア内を四季にあわせて飾り付けたり、外出時や行事の写真等を展示している。 	共有空間は木の温もりのする落ち着いた雰囲気であり、大きな窓からの採光も良く、手入れの行き届いた庭が見え開放感がある。季節の花や、利用者や職員の習字等の作品を飾って、温かみのある環境づくりをしている。国道に隣接しているが敷地が広い道路からの騒音は聞こえず、利用者は落ち着いて居心地良く過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂テーブルは気のあった方達同士で食事や会話を楽めるように席を決めている。 		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人が使い慣れたタンス・鏡・御家族の写真・お仏壇など自分の部屋である認識が出来るよう工夫している。 	居室には本人が使い慣れたタンスなどを持ち込んでもらっている。絵画や置物のほかに自分で作った作品なども飾って、その人らしい居室づくりをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の出来る事、得意な事を把握し、落ち着いてお手伝い等していただけるよう声かけしている。 ・可能な方には調理・盛りつけ・配膳や後片付けなどしていただいている。 		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

(萌木ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念は「報恩・感謝・奉仕」であるが、昨年に引き続き事業所の目標を「理念をよく理解し行動する」とし、利用者との関わりやケアの中に理解出来た理念を実践して行こうと取り組んでいる。	法人の理念「報恩・感謝・奉仕」を具体化した「心得」があり、朝礼時に唱和することで意識を高めている。また年頭には職員一人ひとりが理念を実現するための目標をたて、12月に振り返りの発表会を行うなど理念の実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の祭りや地域の行事に参加し、地域住民の方々と交流を図っている。 ・自治会の草取りや溝掃除に参加出来る入居者は職員と共に参加している。	自治会の「ふるさと祭り」には、子供みこしの休憩所にホームの庭を提供し飲み物を用意して、地域の方々と交流している。地域の保育園との交流も行われており、今後は「地域の茶の間」に参加する地域の方々との交流も計画している。	事業所の行事への参加を地域に働きかけているが、より多くの方に参加していただけるよう、さらに運営推進会議で相談したり、チラシの配布や回覧板の活用など自治会を通じた働きかけも検討してはどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・職員個々に認知症キャラバンメイトの研修に参加し、今後地域の人々に伝えて行きたいと考えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年間6回以上開催する事が実現出来るよう取り組み、日常の様子や行事を報告するだけでなく、会議のメンバーの方々にも意見や要望等も聞かせてもらい、課題改善の参考にさせてもらっている。	自治会長から会議のメンバーに加わってもらったことにより、地域の行事等の情報や防災面での助言や提案をもらえるようになった。また、他法人のグループホームの管理者にもメンバーになってもらっており、バーベキュー等でのグループホーム間の交流が実現している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・管理者が介護認定審査委員であり、月に何度か区役所を訪れ、必要に応じて担当各課に相談にのってもらっている。 ・他グループホームの運営推進会議委員でもあり、市町村職員とも意見交換できている。	区の担当課の担当職員とは、ホーム運営や利用者・家族の状況等について相談しやすい関係がある。成年後見制度の利用に関しても担当者に相談して助言を受けた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について内部研修を行い、日常のケアに不適切なことがないよう取り組んでいる。 ・スピーチロックについても理解し、意識を持ち日常のケアを行っている。	マニュアルは職員がいつでも見ることができる場所に整備している。また、外部研修に参加した職員が伝達講習を行って全職員に周知している。交通量の多い国道に隣接しているという立地であり、職員が気づかないうちに外へ出かけられる利用者がおられるため、玄関に施錠している。	身体拘束について職員一人ひとりの理解を深めるとともに、利用者の様子からその人の思いや行動パターンを把握して外に出かける理由等を検討し、玄関の施錠をせずに安全を確保するケアに向けて今後も取り組んでいくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に加え同じく内部研修を行い、職員への周知を図っている。 ・入居者に対する職員の言葉や態度にも気を付け、その場その場で注意しあう環境を作っている。 	マニュアルは職員がいつでも見ることができる場所に整備している。内部研修で虐待防止について全職員に周知しており、日々の利用者との関わりの中で不適切な言動がないか、職員同士で注意し合って防止に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の中には現に成年後見制度を活用しておられる方もいて、管理者・職員も共に学びながら日々を送っている。 ・管理者をはじめ職員は機会をみて成年後見制度の研修会などに参加して理解を深めている。 		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の見学時、また契約時に出来るだけ詳細に説明を行っている。 ・本人や家族が疑問や不安を口に出し安い雰囲気作りに努め、疑問・質問等あれば丁寧に説明している。 		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が面会に来られた時は個別に時間を取るように心がけ意見や要望などを聞くようにしている。 ・管理者・職員は利用者と個々に向き合う時間を持ち悩みや個別の要望などを聞くようにしている。 	利用者本人や家族、その他来訪者が誰でも自由に書けるノート(もえぎノート)を用意しており、要望や思いなどを書き込んでもらって運営に反映させている。要望に対するホームからの回答も記入している。また、利用者の個別の要望等についてもそれぞれ時間をとって話を聞き、実現に向けて検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者は定期的に職員と面談する機会を設け、職員の意見や要望などを取り上げている。 ・管理者・各ユニットリーダーは日常的に職員の意見や提案を聞き入れ、運営に反映させている。 	1~2ヶ月に1回、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞いている。昼食時間の設定や、庭の舗装、ライトの設置等の意見・提案があり、運営に反映されている。また、法人代表者が職員と面談を行う機会をつくり、意見や要望を聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者をはじめ運営に深く携わる理事・評議員・各事業所の責任者が参加する経営会議が月に一度開かれ、事業所の問題点、課題、職員の取組、成長、功績など報告し、職場環境の向上を話し合っている。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に外部講師を招いて研修したり、外部の研修にも積極的に参加出来るよう、勤務の配慮をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設との交流会を交互に行っている。他施設からの見学・実習受け入れは積極的に行っている。 ・市内にある数力所の同業者や他施設とネットワーク作りを行っており勉強会等も実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居者本人と会話する機会を多く作りよく観察し、希望や不安などを聞き取り、その想いを汲み取るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族に対しても充分な話し合いの時間を作り、要望等を伺い良い関係造りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・他のサービスを受けていた事業所から情報を収集し、必要とされている支援を把握し、対応するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員が常に情報を共有し、それぞれの状態にあわせ、本人からも積極的に参加していただけるように支援している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族へ面会や行事参加を呼びかけ、また便りを出して日頃の様子を伝えている。 ・受診も出来るだけ協力していただけるよう、身体状況や生活状況を説明している。	“家族は本人にとってかけがえのない存在である”という認識のもとに、行事への参加や受診の付き添いを依頼している。また、毎月「グループホームだより」を家族へ送り、利用者の日常の様子を伝えることで、ホームと家族が協力して本人を支えていく関係構築に努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人の希望を聞き取り、ご本人の友人や家族、親戚の方にも気軽に来ていただけるようにしている。	利用者のこれまでの暮らしの中での馴染みの関係を、アセスメントにより把握している。利用者の大切な家族の月命日には職員付添いのもと自宅へ行くなど、個別の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者一人一人の性格や、入居者同士の相性を把握し、身体状況も踏まえスムーズな関係造りが出来るよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて退去後のお見舞いや訪問等を行い、家族から相談があれば応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者とのコミュニケーションをとり、本人の望まれている事を実現出来るよう努めている。 ・自己表現の困難な方については、本人をよく観察し希望を把握できるよう努めている。	リラックスしてゆっくり個別に関われる入浴の時間などを大切にして話を聞き、本人の思いや意向の把握に努めている。本人の思いや意向は職員間でミーティングやノートを使って共有し、実現に努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・在宅時や他サービス利用時の情報を収集し、職員が周知するよう努めている。 ・入居者の生活歴などの情報を職員全員で共有している。	入居時に、家族にセンター方式のアセスメントシートの記入を依頼し、本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方等の情報を得て、日々の関わりに活かしている。その後は、職員が本人や家族から聞き取ってシートに記入し、共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者個々の出来る事、出来ない事を見極め、その日の体調等により適切な援助が出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスを通して入居者の現況を話し合い、家族や本人の要望や意向を介護計画に反映させている。 ・家族ともよく話し合い情報を得ている。	日々のかかわりの中でご本人の状態や意向を確認し、家族には面会時や電話で話を聞きながら、毎月モニタリングを行い、半年に1回の介護計画の見直しを行っている。介護計画の実施記録について、様式を検討しながらより良い方法を模索しているところである。	介護計画に沿って実践状況を日々記録することで、より一層具体的な評価が行われるのではないだろうか。適切で効率的な記録方法や様式等を引き続き検討し、的確な評価により本人の現状に即した介護計画が作成されることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録、業務日誌、個別記録表、また申し送り等で情報を共有し、必要時には計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な限り本人・家族等のニーズに対応し、フォーマル・インフォーマルを含め、様々な関係者の協力をいただきながら取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域や市の行事に参加したり、公民館活動へ参加している。 ・地元のスーパーへ買い物に出かけたり、美容院へ出向き利用している。 ・ボランティアに多く慰問に来ていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的にかかりつけ医へ受診したり、往診してもらっている。 ・本人の状態により家族と相談し、専門医への受診を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医に継続して診てもらっている。受診の付き添いは家族に行ってもらうことを基本とし、ホームに入居しても家族との関わりが途切れないようにしている。家族が困難な場合などは職員が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・併設のデイサービスと兼務の看護師に随時様子を相談し、異変がある時は早急に対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中も病院関係者と連絡をとりあい、本人の身体状況をよく把握し家族とも情報を共有している。 ・退院後速やかに普通の生活に戻れるよう、受け入れ準備を整え支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際、家族と十分な時間を取り施設の出来る事、出来ない事を説明して施設の方針を伝えている。 ・看取りについて研修や話し合いを持ち、取り組んでいる。	入居時に本人が最期をどこで迎えたいか、家族を含めて話し合うと共に、ホームですること・できないことを説明して理解を得ている。平成23年に初めて看取りをした経験を活かし、重度化した場合の対応に係る指針を作成して体制作りを進めている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命訓練を定期的に行い、職員全員が訓練に参加し、実践力を身につけている、	マニュアルを整備するとともに、年1回救急法の研修を行い、全職員が急変時に迅速な対応ができるよう訓練を重ねている。日常の事故については、事故報告やヒヤリハットで共有し、再発を防ぐよう意識付けを行っている。	事故報告に再発防止の対応策が記載されているが、その効果の検証ができていないのが確認できなかった。期間を定めて対応策の検証を行うことで、さらなる再発防止につなげることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 火災や地震などの災害時、緊急連絡網を整備し、いざという時に備えている。 地域住民の方にも日頃より協力をお願いし、了承を得ている。 	地域の防災訓練で炊き出しやバケツリレーに参加したり、近所に災害時の応援を依頼する文書を配布している。水・食料の備蓄のほかに石油ストーブや自家発電機も用意し、年2回のホームの避難訓練の際に使い方の訓練も行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の気持ちを尊重しプライバシーの保護に努めている。 トイレ誘導は他の入居者に気付かれないように配慮している。 	利用者一人ひとりの人格や状況に配慮し、自尊心を傷つけない声かけをするように気をつけている。また利用者に対し「～させる」など指示的な言葉使用をしないよう、職員同士で注意しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 外出などは入居者の希望を取り入れている。 毎日の会話の中で話しやすい環境作りをしている。 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の希望を取り入れ、ゆったりと暮らしていただいている。 自己決定を優先しなるべく沿うようにしている。 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 日常は清潔な衣服と整容・整髪にその人らしさが出るように支援し、外出や行事などはおしゃれとお化粧品などをしていただいている。 		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事の準備には可能な方から参加していただいている。他の方とのバランスがとれず、つい職員主導で行ってしまう事もある。 後片付けは会話を交えながら行っている。 	利用者と職員と一緒に庭の畑の野菜を収穫し、その野菜をどう調理するか相談したり、一緒に調理するなど食事作りの楽しみを支援している。ゆったりしたオープンキッチンには、準備や後片付けに利用者が自然に出入りされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 体調や体格に合わせて食事量を調整しているが、カロリー面ではしっかりと目安を決めていないので、多くなっている傾向にある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアは欠かさず行っているが、自立している方は一人で行っていただくので、細かなケアが出来ていない事もある。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンを把握し、失敗しないようトイレ誘導している。 ・失敗があった時は清拭・入浴等行い清潔保持に努めている。	チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンの把握し、さりげなく声をかけたり、適時トイレへ誘導して、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・主食に玄米や雑穀を多く取り入れ、食物繊維の豊富な食品、野菜等を積極的に取り入れている。 ・バランスの良い食事、水分摂取、規則正しい生活、適度な運動を常に心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴時はマンツーマンなので積極的にコミュニケーションを取り、楽しんでいただいている。 ・100%の希望に添うことは出来ないが、可能な限り本人の希望に添うよう努めている。	「夏は毎日入浴したい」「入浴剤を使いたい」などの希望を聞きながら、できるだけ利用者一人ひとりの要望に沿った対応をしている。入浴拒否のある方には、時間や日、対応職員を替えるなどして声かけをしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その時の状態により日中でも気兼ねなく休んでいただけるようにしている。 ・夜間は眠くなるまで自由に過ごされ、心地よい安眠に至るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各個人ファイルに服薬明細がとじられてあり、職員全員で共有出来ている。 ・症状の変化があれば主治医に報告相談して指示を仰ぎ、速やかに対処している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各々出来る事の中から役割を決め、お手伝いをしていただき張り合いを持てるよう努めている。 ・楽しみごとは全員で楽しめるような行事やゲーム、歌や体操など考えて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の希望を聞き、戸外に出かけたい時は可能な限り実現に努めている。 ・外出行事などは入居者の希望も聞き入れ、全員で楽しめるような場所を選び計画している。 	朝・夕のゴミ捨てや毎日の散歩など、日常的に戸外に出かけている。自宅へ行きたい、ドライブしたいなどの要望のあるときは、職員の体制が可能な限り実施している。天気の良い日や地域の行事があるときは、気分転換も兼ねて外出し楽しんでる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的に買い物など希望される方は、職員が同行しお金を渡して支払っていただいている。 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話を掛けたい方はかけていただいている。 ・手紙を書かれる方は自分で書かれている。 ・家族からの電話は直接出ている。 		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・庭や花壇から入居者自ら花を摘んでいただき、季節の花を絶やさず飾っている。 ・玄関前やテラスにはベンチやイスがおかれ、外の景色を楽しみながらゆったり過ごせるように努めている。 	共有空間は木の温もりのする落ち着いた雰囲気であり、大きな窓からの採光も良く、手入れの行き届いた庭が見え開放感がある。季節の花や、利用者や職員の習字等の作品を飾って、温かみのある環境づくりをしている。国道に隣接しているが敷地が広い道路からの騒音は聞こえず、利用者は落ち着いて居心地良く過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂テーブルの他に、廊下の長いす、園庭のベンチなど、気のあった人と楽しく談笑されたり気持ちよく歌を唄えるよう工夫している。 		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の使い慣れた家具やテレビ、本人の写真や家族の写真などをおき、自分の部屋である認識が出来るよう工夫している。 	居室には本人が使い慣れたタンスなどを持ち込んでもらっている。絵画や置物のほかに自分で作った作品なども飾って、その人らしい居室づくりをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応に心がけ、落ち着いてお手伝い等していただけるよう声かけをし、調理・盛りつけ・配膳・後片付けなど積極的にしていただいている。 ・洗濯物干し、洗濯物たたみなど喜んでして下さっている。 		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない